



2025.7-8

vol.
179商標登録で
“企業防衛”

2025年は、国際協同組合年

藤本壮介の建築:原初・未来・森 開催中!

2025年大阪・関西万博の象徴《大屋根リング》の設計者、藤本壮介初の大規模個展



ラルブル・ブラン(白い樹)2019年 フランス、モンペリエ 撮影:イワン・バーン

2025年大阪・関西万博《大屋根リング》2025年
提供:2025年日本国際博覧会協会

森美術館(東京、六本木ヒルズ森タワー 53階)は、2025年7月2日(水)~11月9日(日)まで、「藤本壮介の建築:原初・未来・森」を開催しています。

藤本壮介(1971年、北海道生まれ)は東京とパリ、深圳に設計事務所を構え、個人住宅から大学、商業施設、ホテル、複合施設まで、世界各地でさまざまなプロジェクトを展開しています。2000年の《青森県立美術館設計競技案》で注目を集めたのち、《武蔵野美術大学美術館・図書館》(2010年、東京)、《サーベンタイン・ギャラリー・パビリオン2013》(ロンドン)、近年では集合住宅《ラルブル・ブラン(白い樹)》(2019年、フランス、モンペリエ)や音楽複合施設《ハンガリー音楽の家》(2021年、ブダペスト)などのプロジェクトを次々と完成させ、高い評価を得てきました。現在開催中の2025年大阪・関西万博では会場デザインプロデューサーを務めるなど、いま、最も注目される日本の建築家の一人です。

同展は、藤本にとって初の大規模個展です。活動初期から世界各地で現在進行中のプロジェクトまで8セクション構成で網羅的に紹介し、約30年にわたる歩みや建築的特徴、思想を概観。展示には模型や設計図面、竣工写真に加え、インスタレーションや空間を体験できる大型模型、モックアップ(試作モデル)なども含まれ、建築に携わる人だけでなく、だれもが藤本建築のエッセンスを体感できる、現代美術館ならではの展覧会。さらに藤本による未来の都市像の提案を通し、

建築の存在意義や可能性についての考察も試む。

環境への配慮、人と人との変わりゆく関係性、分断されたコミュニティをつなぐ機能、テクノロジーの発展に影響される生活など、今日、建築や都市には従来以上の役割を担うことが求められています。そのような時代に、建築は私たちの暮らしをどう変えるのか。藤本の実践をとおして、みなさんとともに考えます。

タイトルに込められた想い・意図とは

北海道・旭川の隣町である自然豊かな東神楽町で育った藤本にとって、北海道の雑木林は原風景です。同様に東京のような巨大都市の、入り組んだ路地や雑多なものが併存するよりも、「乱雑さの中にゆるやかな秩序がある」と森の要素を見出しています。小さい枝や葉などによって構成される森も、路地に存在する植木鉢や自転車、看板など小さなものとともに「ヒューマンスケール」です。そして森も都市も複層的であり、また命が生まれ循環する場でもあります。森は人類誕生以前からの原初的な存在ですが、この「森」という概念は藤本の創造における核の1つであり、活動初期から現在まで、さまざまな形で具現化されています。そして藤本はこの概念が未来の建築や社会のモデルとなると考えています。同展の副題「原初・未来・森」には、そんな藤本の想いが込められています。(2ページへつづく)

日本水大賞
第二十八回

日本水大賞
第二十八回

「地球、水、未来を考える」

日本水大賞委員会 委員長 毛利 衛

募集期間

日本水大賞 2025年7月7日~10月31日
日本SJWP 2025年4月1日~9月30日日本水大賞 大賞(副賞200万円) 大臣賞(副賞50万円)
市民活動賞(副賞30万円) 國際貢献賞(副賞30万円)

日本ストックホルム青少年水大賞(日本SJWP)

大賞(副賞20万円) ストックホルム青少年水大賞(国際コンテスト)へ
日本代表として参加河川基金 公益財団法人河川財団による
河川基金の助成を受けています。

主催: 日本水大賞委員会、国土交通省
名譽総裁: 別條昌貴副官
後援: 内閣官房水循環政策本部、外務省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、環境省、読売新聞社、スクーディスク大使館、他
賛助: 株式会社建設技術研究所、株式会社東京建設コンサルタント、日本工芸株式会社、ハーフィックコンサルタント株式会社、アートエクスプレス会社、八千代エクシニヤリング株式会社、応用地質株式会社、共創コンクリート工業株式会社、「Jリバ」実行委員会

【お申込み・お問い合わせ】
日本水大賞委員会 事務局 <http://www.japanriver.or.jp/taisai/>
TEL: 03-3238-9771 (平日9:15~17:30)
TEL: 03-3238-9771 (平日9:15~17:30)
<https://www.japanriver.or.jp/taisai/>



「第27回日本水大賞」
「2025日本ストックホルム青少年水大賞」
★★受賞者★★
受賞された皆さま おめでとうございます!



日本水大賞 HP



日本SJWP HP



■日本水大賞 ■(応募総数 75件)

各賞	活動の名称	活動主体の名称	都道府県
大賞	地域の農業を守りたい ～老朽化した農業用水路の保全に向けた高校生の取組～	群馬県立吾妻中央高等学校 環境工学研究部	群馬県
国土交通大臣賞	「文理融合」「デジタル×リアル」で探究する宮崎の 水防災・水環境	宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校	宮崎県
環境大臣賞	霞ヶ浦の豊かな自然環境を目指して ～釣り人の想いから始まった湖岸清掃活動とその後の発展～	NPO法人 水辺基盤協会	茨城県
農林水産大臣賞	水辺の植樹を通じた水環境教育 (酪農を学ぶ高校生による水環境保全への取組)	北海道別海高等学校 酪農経営科	北海道
文部科学大臣賞	みんなの川塾～大手川の環境改善と流域学習～	京都府立宮津天橋高等学校 フィールド探究部	京都府
経済産業大臣賞	水アクセスの改善が必要な地域に安心な水を届ける ヤマハクリーンウォーターシステム	ヤマハ発動機株式会社	静岡県
市民活動賞	荒ぶる荒川に荒バラ団あります! 荒川クリーンエイドこれまでの30年、これからの30年	特定非営利活動法人 荒川クリーンエイド・フォーラム	東京都
審査部会特別賞	下水道から広がる環境教育 ～2世代とはじめる廃棄物のない世界へ～	Gゼミ(新潟法律大学校) 下水道広報ゼミ	新潟県
	北上川河口域のヨシ原と文化の保全・創出・伝承	特定非営利活動法人 りあすの森	宮城県
	猪苗代湖の環境保全と自然保護思想の普及向上	猪苗代湖の自然を守る会	福島県
	里山・棚田の保全と地域文化の継承と上下流交流	NPO里山環境さなざわ・さなざわ 里山だんだんの会	群馬県
	地域資源を活かした沖縄ダム教材の官学共同制作	沖縄ダム教材制作チーム	東京都
	自然共生社会の実現に向けた産学連携による 生物多様性調査と環境教育	日立製作所 研究開発グループ 国分寺サイトバイオシステム研究部	東京都
	水への恩返し～水と織維と「すこスコーン」～	福井県立大野高等学校 JRCT 結	福井県
	藤前干潟クリーン大作戦	藤前干潟クリーン大作戦実行委員会	愛知県
	ネコギギの生息域外保全と普及啓発活動 ～鈴鹿川水系の環境調査22～	鈴鹿享楽学園 鈴鹿高等学校 自然科学部 鈴鹿中等教育学校 科学部	三重県
	斐伊川・神戸川流域環境マップづくり	NPO法人しまね体験活動支援センター	島根県

※今回、国際貢献賞はございません。

■日本ストックホルム青少年水大賞 ■(応募総数 13件)

各賞	調査研究の表題	学校・クラブ名	都道府県
大賞	宮古島の命の源である地下水を化学農薬汚染から守る研究	沖縄県立宮古総合実業高校 環境班	沖縄県
審査部会特別賞	水車で創る再生可能エネルギーで 通学路の夜道を照らす取り組み	大分県立大分工業高等学校 DAIKO水車プロジェクトチーム	大分県

※ グランプリを受賞された「沖縄県立宮古総合実業高校 環境班」の皆さん、日本代表として
2025年夏にスウェーデンのストックホルムで開催されるSJWP(国際コンテスト)に参加します。